

壮大かつ華麗に「真の父母様聖誕記念式」 挙行

「世界平和」実現に向けた 8 日間の “平和祝祭”

天一国 5 年を迎え、天の願いである“天一国実現”に向けて力強く出発する中、韓国に全世界から各界の指導者と食口・祝福家庭が集い、真の父母様の聖誕日（2 月 2 日）を祝賀する行事を壮大かつ華麗に開催すると共に、74 億人類が進むべき今後の方向性を議論する国際会議などが行われました。

聖誕記念式に 2 万人

2 月 2 日（天暦 1 月 6 日）午前、全世界から約 2 万人が清平の清心平和ワールドセンターに集い、「天地人真の父母様聖誕記念式」を開催。式典の様子は世界 194 カ国にインターネット中継され、世界中のメンバーが真のお父様の 97 歳、真のお母様の 74 歳の御聖誕日を祝賀しました。

記念式は、司会の柳慶錫・韓国家庭連合会長の開会宣言に続き、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が報告祈禱を行いました。

記念映像「天の栄光、人類の祝福」が上映された後、壇上のスクリーンに天一国のシンボルマークと真のお父様の尊影が映し出されると、舞台中央に真のお母様が登場され、会場全体から大きな拍手で迎えられました。

花束贈呈、ケーキカットに続き、礼物として理想世界を建設するという願いが込められた地球儀がお母様に奉呈されました。

次に、文善進世界会長が歓迎の辞を述べ、「（真の父母様は）戦争で廃墟となった国の灰の中から立ち上がり、より崇高な目的のために平和に対する天の父母様の夢を成してさし上げるために生きてこられたのです」と語られました。（4 面に関連記事）

続いて、ダン・バートン「世界平和国会議員連合」（IAPP）共同委員長（元米下院議員）が祝辞で、「IAPP を設立し、家族を強化する（お母様の）指導力は、米国と世界が平和の道を発見する手助けとなっています。（お母様が）全人類のための愛の道を歩まれるにあたり、私たちも一緒に歩んでいきたいと思います」と述べました。

引き続き、1984 年 1 月 1 日の「第 17 回真の神の日」



に際し、故・柳光烈歴史編纂委員長（当時）が捧げた祝詩「今はお母様の時」を鄭元周総裁秘書室長が朗読。

祝歌として、成和学生連合合唱団が「真の父母様ハレルヤ」「統一アリラン」を合唱した後、真のお母様が退場され、第 1 部が閉幕しました。

記念式ではその後、第 2 部としてミュージカル「孝情の夢」が上演。午後からは第 3 部「孝情文化祝祭」として、「天地人真の父母様水刺床（スラサン）分かち合い大祝祭」と「孝情文化特別公演」が開催されました。（8 面に関連記事）

記念式に先立つ 2 月 1 日午前、真のお母様を清心平和ワールドセンターにお迎えして、「天地人真の父母様聖誕及び基元節記念生涯業績展示会」のオープン式が開催されました。

展示会は、ワールドセンターと鮮鶴歴史編纂苑を会場として、真の父母様の聖婚以降の足跡や、真のお父様の聖和以降の 3 年間の侍慕精誠と天一国 4

年までの歩みを紹介。天の摂理の方向性を理解し、VISION2020 勝利のために決意を新たに空間として、多くの食口たちが訪問しました。

5 日には、清平の清心国際青少年修練院で「2017 奨学証書授与式及び奉仕賞授賞式」が行われ、世界 88 カ国から集まった奨学生の代表 800 人余りが参加。真のお母様から代表者に奨学証書と奉仕賞がそれぞれ授与されました。

“平和、安保、人間開発”をテーマに「世界サミット 2017」

清平の HJ 天苑を中心として行われた聖誕祝賀行事と並行して、ソウル市内では「世界サミット 2017」が 2 月 1 日から 4 日間の日程で開かれ、世界 120 カ国から国会議員や各界の指導者およそ 1000 人が参加。「平和、安全保障、人間開発」を中心テーマに、それぞれの分野のエキスパートによる提言と活発な意見交換が行われました。

1 日にはソウルの韓国国会大会議室で「東北アジアの危機克服と韓半島平和統一に」に向けた国際指導者会議が開催。東北アジアの平和実現のため積極的に協力することを盛り込んだ「ソウル宣言文」を採択しました。

3 日は「第 2 回鮮鶴平和賞授賞式」が行われ、難民問題の解決のため長年尽力してきたイタリア人医師ジーノ・ストラダ博士（68 歳）とアフガニスタンの女性教育家サケナ・ヤクービ博士（66 歳）の両氏に鮮鶴平和賞が授与されました。

4 日には「世界平和国会議員連合」（IAPP）世界総会が開かれ、現職・元職の閣僚、国会議員 400 人を含む約 800 人が参加。真のお母様が基調演説で、世界平和の「障害物」となる“自国優先主義”に警鐘を鳴らされました。（3 面に関連記事）

また 4、5 日の両日、「第 23 回科学の統一に関する国際会議」が開催され、ノーベル賞受賞者を含む世界的に著名な科学者約 60 人が参加しました。

①盛大に開かれた聖誕記念式 ②祝賀ケーキのローソクの火を吹き消される真のお母様と文善進世界会長 ③礼物として「地球儀」を贈呈 ④鮮鶴平和賞授賞式で（左から真のお母様、ヤクービ博士、ストラダ博士、洪一植・元高麗大学総長）

真のお母様のみ言

父母の心情で世界の問題を治癒させるのが使命

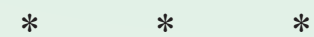
以下のみ言は、2月4日にソウル市内のホテルで行われた「世界平和国会議員連合」世界総会で、真のお母様が語られた内容を日本語に翻訳・整理し、一部を抜粋したものです。(文責・広報局)



私たちは皆、自由で平和な一つの世界を願っています。しかし現在私たちが対している世界は宗教の壁、人種の壁、文化の壁、国境線、さらに一層深くなっている利己主義的な自国の利益を優先するような動きは、一つの世界に行こうとするにあたって障害物となっています。

このような時点で皆さんが願い、天が願うその意義はどこにあるのでしょうか？ 本来この世界の主人は神様であられます。創造物からすべての人類が神様に属しています。しかし人類はそれが分からないでいます。人間と神様との関係が分からないのです。ですから人類歴史を通じて数多くの国々の分裂と戦争と、到底言葉にできない和合統一を遠ざける個人的な自国の利益のみを追求する、そのような文明史を成してきたことは事実です。

皆さんはこの世界に起きている現実を見る時、私たちの子孫の未来が希望的だと言うことの出来ない結果になることを心配しています。そうであるなら今、皆さんの責任が重要なのです。



今日起きている現象を見る時に、中心がありません。小さな国でも大きな国でも、まず自国の利益だけを考えます。私たちの心は一つの世界、平和で幸福な一つの世界を願うのですが、あまりにも多くの障壁があります。

しかしきょう皆さんは、大きな夢を持ってここに集いました。その意味は、皆さんが真の父母と創造主神様と同じ夢を見ているという事実です。

豊かな国も貧しい国も、それらすべての問題点を治癒させることができる父母様の顕現こそ、今日のすべての難問題を解決することのできる唯一の道です。その意味



はすべての国々が、皆さんが皆さんの国で神様、創造主・天の父母様に侍る運動をしてこそ、世界平和が訪れるようになるということです。

そのように 6000 年間という悠久なる歳月を、蕩滅復帰路程を通じて、ご自身が立てて墮落した人類、聖書で言う野生のオリーブの木を真のオリーブの木として作って上げることができる方は、ただ真の父母だけです。真の父母を通じて祝福を受けることによって、神様の孝子孝女の立場に立つということです。

きょうの私たちの集いは、神様と私たちは父母と子女の関係ということです。父母と子女が一つになることのできなかつた過去の人類始祖の間違いを蕩滅復帰した立場になったので、皆さんが神様の子女になることができたのです。そうであれば真の父母様とともに UPF (宇宙平和連合) を中心として、名実ともに議員連合はアベル UN (国際連合) になるでしょう。それは実質的に真の父母様によって、世界すべての問題を父母の心情で教育し治癒させて、健康な神様がともにある地上天国をつくる運動が天一国なのです。

それで私がきょう各国から来られた議員連合の会員の皆さんに願うことは、それぞれ自分の国の民族メシヤになってください。皆さんの国の国民を救って生かす、実質的な真の父母様の教えを教育する、誇らしい国家メシヤになることを祝願いたします。

私たちの永遠なる真の父母様

文善進世界会長のメッセージ

以下のメッセージは 2 月 2 日、韓国・清心平和ワールドセンターで行われた「天地人真の父母様聖誕記念式」で文善進世界会長が語られた内容を日本語に翻訳・整理し、一部を抜粋したものです。(文責・広報局)



私の両親が今までの 70 年間展開して来られた世界的な運動、今では社会の至る所に影響を与えているこの運動を考える時、本当に驚き、感謝しながらも、謙遜にならざるを得ません。

お二人は、神様の下の人類一大家族世界を成すという、ただ一つのビジョンに導かれて、毎日、毎瞬間の人生を天の父母であられる神様と人類のために生きて来られました。それは決して簡単ではない道でした。決して勝つことができないように見える苦難に何度も直面し、偏見と誤解から反対と不当な待遇に至るまで、あらゆる困難を経験されました。

しかしご自身の使命を果すことを決して諦められなかったのです。恩讐さえも愛することで、統一された宇宙平和の世界、万民が被造物とともにお互いに調和を持って生きる世界建設という神様の夢を実現させるため、真の愛の運動を始められました。

お父様が霊界に逝かれる数年前に脱稿された自叙伝の題名は『平和を愛する世界人として』です。実際にお二人は現在の北朝鮮にある小さな村で生まれましたが、戦争と植民地統治、収監、そして信じがたい苦痛にもかかわらず、神様の恩賜により“平和を愛する世界人”としての生涯を生きるように成長されました。

お二人は戦争で廃墟になった国の灰燼から立ち上がり、崇高な目的のために、平和に対する天の父母様の夢を成して遂げて差し上げるために生きて来られました。故国の解放のためにだけでなく、全世界の自由のためにその一生を捧げられました。ご自身の人生を神様に委ねて、全人類と神様の被造物を愛すると誓われました。

そして 1960 年 (陽暦) 4 月 11 日、お二人がご聖婚



されたその日以後は、そのような原理的な道を歩まれる上で決して揺らぐことはありませんでした。



お父様が聖和されて以降、真のお母様が絶対信仰と愛と知恵で私たちの組織を導いて来られました。50 年を越える歳月の間、お父様の側で一緒に活動して来られたのがお母様です。真のお父様の永遠なる同伴者として真のお母様と同じような者はおらず、全世界の統一家を導く素質が卓越しており、天に由来しております。お母様はお父様のビジョン、お二人の世界平和のビジョンを実現するために日々休まずに働いておられます。

私の父が神様の男性像と愛の実体であることで知られているように、私たちは私の母がどのように神様の真の愛の女性像を实体化されるかについて、より新しく、より深い次元で分かるようになりました。最も睦まじい夫婦として、お二人はともに神様のすべての子女と万物のために、平和と統一に至る道を見せて下さいました。

お二人は現在も、今後も永遠に、私たちの永遠なる真の父母であられるでしょう！アーチュ！

ソウルで「第2回鮮鶴平和賞授賞式」

難民問題解決に尽力してきた2博士が受賞



①記念のメダルを受け取るサケナ・ヤクービ博士
②記念のメダルを受け取るジーノ・ストラダ博士
③鮮鶴平和賞授賞式の会場

も基礎的で根本的な方向を提示しました」と受賞者選定の理由を明らかにしました。

続いて、ストラダ博士の業績を紹介する映像が上映。真のお母様と洪委員長から同博士に記念のメダルと賞牌が授与されました。

ストラダ博士は受賞スピーチで、「今、私たちは『世界平和』という言葉が、まるで非現実的なユートピアのように聞こえる時代を生きています。文鮮明・韓鶴子総裁が世界平和のため、人類が一家族となるための対話と協力を進めるために闘ってくださっていることに心から感謝します」と強調。その上で、「戦争の撲滅こそが、最も現実的で人道的な問題解決の道であり、それによって本当の人権が得られると考えています。私たちは戦争の論理を克服し、平和の世界を築くために努力していかなければなりません」と訴えました。

引き続き、ヤクービ博士の業績に関する映像上映、メダルと賞牌の授与の後、同博士が受賞スピーチを行い、「憎しみによって国が減んでいきます。憎しみと偏見を乗り越えるのは教育しかありません。本当の知恵を教え、愛を教え、人間の尊厳性を教え、責任感を教え、私たちが協力し連帯し得ることを教えるのが教育です」と指摘。「私はこの賞をアフガニスタン国民のため、特に女性や子供のために捧げたいと思います。韓鶴子総裁のこのすばらしいイニシアティブに心からの敬意を表します」と語りました。

授賞式は、第1回受賞者であるアノテ・トン前キリバス大統領の祝辞の後、祝賀公演が行われ、閉幕しました。

2月3日午前、ソウル市内のホテルで「第2回鮮鶴平和賞授賞式」が開催され、国家首脳をはじめ、各界の指導者およそ800人が集まる中、難民問題の解決のため長年尽力してきたイタリア人医師ジーノ・ストラダ博士（68歳）とアフガニスタンの女性教育家サケナ・ヤクービ博士（66歳）の二人に鮮鶴平和賞が授与されました。

ストラダ博士は、深刻な紛争に見舞われてきた中東及びアフリカ地域で約30年にわたって緊急医療救護活動を展開し、800万人の命を救ってきた功績が高く評価。ヤクービ博士は、戦争で廃墟となったアフガンの難民キャンプで、延べ1300万人に教育の機会を提供しながら、難民再定住の解決策を提示したことなどが認められました。

授賞式では、鮮鶴平和賞委員会の洪一植委員長（韓国・高麗大学元総長）が歓迎の辞で、「（ストラダ、ヤクービ両博士は）人道主義の実践を通して難民問題解決に最

“自国優先主義”は世界平和の障害

「世界平和国会議員連合」世界総会



① IAPP の参加者と真のお母様（中央）
② IAPP 世界総会の参加者
③ トン前キリバス大統領ご夫妻から花束を受け取られる真のお母様
④ 真のお母様と ICUS 参加者との懇談会

2月4日、ソウル市内のホテルで「世界平和国会議員連合」（IAPP）世界総会が開催され、120カ国から現職・元職の閣僚、国会議員400人を含む約800人が参加しました。

第1セッションでは、アルゼンチンやウクライナ、ポルトガルなど10カ国の代表が挨拶。第2セッションでは、ネパールのチトゥラレカ・ヤダブ教育相やホセ・デベネシア IAPP 共同議長（元フィリピン下院議長）など4人がスピーチを行いました。

続いて、文善進 UPF 世界議長が登壇され、「2017年、IAPP は全世界の平和のために確固たる寄与を果たすことでしょう」と語り、真のお母様を紹介されました。

会場の盛大な拍手に迎えられて真のお母様が入場されると、アノテ・トン前キリバス大統領ご夫妻が花束を贈呈しました。

お母様は基調演説で、「私たちは皆が自由で平和な一つの世界を願っています。しかし、現在の世界は、宗教の壁、人種の壁、文化の壁、国境線が、よりいっそう強固となっています。利己主義的で、自国の利益を優先す

るそのような動きは、神様の世界に向かう障害物となっています」と指摘。その上で、「富める国々、貧しい国々のすべての問題点を治癒し得る父母様の顕現こそ、今日のすべての難問題を解決し得る一つしかない道です。すべての国々で皆さん方が、皆さんの国に神様、創造主・天の父母様を迎える運動をしてこそ、世界平和が訪れ得るということです」と語られました。

基調演説の後、真のお母様が、IAPP 共同世界議長に就任したダン・パートン（元米下院議員）、デベネシア両氏と、13大陸の議長13人に任命状を授与されました。

地球規模の危機を克服するため科学者が集結

2月4、5日の両日、「地球環境の危機と科学の役割」をテーマに「第23回科学の統一に関する国際会議」（ICUS）が開催。ノーベル賞受賞者をはじめ、世界中から著名な科学者約60人が参加しました。ICUSで真のお母様は、人類の生命、地球の存続を脅かす危機を克服するため、科学者たちが神様を中心とした地球一家族世界をつくる先頭に立つてほしいと激励されました。

天の摂理に寄与する孝子孝女となれ

「2017 孝情世界平和財団奨学証書授与式」



- ①み言を語られる真のお母様
- ②学生代表に奨学証書を授与される真のお母様
- ③真のお母様を中心に全体で記念撮影



真の父母様の聖誕及び基元節 4 周年記念行事の一環として 2 月 5 日午後、韓国・清平の清心国際青少年修練院で「2017 奨学証書授与式及び奉仕賞授賞式」（主催・財団法人「孝情＜HJ＞世界平和財団」）が開催され、家庭連合と統一運動の指導者約 100 人のほか、世界 88 カ国から集まった奨学生の代表 800 人余りが参加しました。

「圓母平愛財団」は昨年 10 月、これまでの指導者養成と共に“孝情”を通して世界平和を成すための文化創造に尽力するという願いを込めて、「HJ 世界平和財団」として再出発。奨学金は、宗教和合の精神に基づいて韓国の 10 大教団から推薦・選抜された学生 80 人のほか、多文化家庭や“脱北者”家庭の学生にも給付され、全体では韓国内外の学生 2000 人に総額 100 億ウォンの奨学金が給付されます。

映像上映に続いて、文妍娥 HJ 世界平和財団理事長が歓迎の辞で、「『孝情』の『孝』は、人類が天の前に返さなければならない道理であり、『情』は孝を通して神様と人類が永遠なる絆を結ぶことを意味します」と説明。その上で、「個人の発展と利益だけではなく、人類が真の父母様を中心として幸福になり得るその日を願いながら、各自の資質を発展させて、大きな結実を結んで世界

のために歩いていくことを願います」と奨学生を激励されました。

奨学生 2 人が真のお母様へ感謝の手紙を朗読した後、世界中から集まったグローバル奨学生の代表約 70 人が、祝歌『One family under God』など 2 曲を披露。

続いて、真のお母様が特別講演で、「皆さんに夢があるならば、真の父母様の夢を実現し、天の父母様の夢を成してさし上げるために、皆さんがよく成長して夏を迎え、また秋の完熟した実となってください。……真の父母様の摂理を、天の父母様の夢を、実質的にここに来て体験して見ることができること、それは人類の願いです。天の父母様の夢を成すことができる地上天国をつくる上で、皆さんは一生懸命に勉強し、任されたことに、皆さんが夢を持って成そうとすることに最善を尽くして、この天苑団地の発展のために寄与することができる、そのような皆さんとなることができるように祝愿いたします」と語られました。

特別講演の後、真のお母様と文妍娥理事長から学生代表に奨学証書と奉仕賞がそれぞれ授与。最後に、日本の宋龍天総会長のリードで億万歳三唱を行い、式典は閉会しました。

2 万の祝賀客の心を満たした真の父母の愛

「スラサン分かち合い大祝祭」



- ①ミュージカルのフィナーレで会場に向けて手を振られる真のお母様
- ②ミュージカルの一場面
- ③聖誕記念式で報告祈禱を行う宋龍天総会長
- ④記念式の参加者に下賜された「スラサン弁当」

真のお父様 97 歳、真のお母様 74 歳の聖誕日を祝う式典が 2 日、世界から集った 2 万人の祝賀客で埋め尽くされた平和ワールドセンターで、盛大かつ華麗に開催されました。文善進世界会長が美しく格調高い言葉で父母様を証しされる場面、天が導いて来られた人類歴史を壮大なスケールで描いたミュージカルとともに感銘を禁じ得なかったのが、お昼の「スラサン（王と王妃の御膳）分かち合い大祝祭」のひと時でした。

同じ会場内におられるお母様と中継でつないで、一緒に「スラサン」弁当をいただいたのでした。弁当には真のお母様のお手紙が添えられ、お父様とともに歩んだ波乱万丈の歳月を顧みられて、こう記されています。

「切迫した 3 年の開拓伝道の間、麦飯ばかりを食べていた時も、1 日 2 カ国以上を息つく間もなく巡回しながら、一口の水でようやく喉を潤した時も、お父様と私は何の心配もありませんでした。すべてが感謝であり喜びでした」

その上で、スラサンを共に分かち合えることに対する

無上の喜びを吐露されたのです。

「皆さんは真の父母様が流される涙の中、懷で再び生んだ、天の血統の真の子女です。天上におられるお父様と私は、永遠に皆さんを愛するでしょう。何よりみ旨のために孤軍奮闘してきた皆さんの熱い涙と汗を、片時たりとも忘れないでしょう」

そして、本来ならば、ゆげがゆらゆらと立ち上る温かいご飯を与えたいのに、与えられないことを残念で申し訳ないとわびる言葉にふれたとき、私は胸がいっぱいになりました。なんだろう、この感覚は。

与えても与えても、なお与え足りないと子女にわびる真の父母の真の愛。かつて、イエス様がパンと魚を配り、数千の聴衆を満足させたように今、再臨主がそこに集まった 2 万の祝賀客の心を、真の愛で満たした瞬間でした。その場に参列し、その恩恵に浴する機会を与えられたことが感謝で、その弁当箱を持ち帰りました。この弁当箱に込められた真の父母の愛を忘れないために。

（広報局・鴨野 守）

真の父母様の御聖誕日を祝賀し、全国各地で多彩なイベント

真の父母様聖誕の喜びを全国・全世界に宣べ伝えたいとの思いを込めて、
聖誕祝祭イベントが全国各地で行われました。1月末に行われたイベントの一部を紹介します。

石川



1月29日、石川教区金沢家庭教会では「真の父母様御聖誕記念礼拝 & 新春ファミリー新年会」が開催され、地元議員や教会員200人以上が参加し、餅つきなどを楽しみました。



静岡



1月29日、西静岡教区浜松家庭教会で餅つき大会が行われ、約150人が参加。来場した近隣住民にも配られて、大変喜ばれました。



岡山



1月28日、岡山家庭教会では「御聖誕記念 幸せを呼ぶ自叙伝心の書写奉納式」を開催。各教会にもインターネット中継され、約500人参加しました。



鳥取



1月29日、鳥取教区は鳥取市内の会場で「新春幸運を招く2000名書写祭りin鳥取」を開催。大雪の中、地元議員を含む約1800人が参加しました。



和歌山

1月29日、和歌山教区和歌山家庭教会で行われた記念行事では、会場入口には御聖誕をお祝いするモニュメントが飾られました。



山梨



1月29日、山梨教区甲府家庭教会で記念礼拝が行われ、約100人が参加しました。礼拝後は、記念の紅白饅頭を教会の近所に配布し喜ばれました。



鹿児島



鹿児島教区霧島家庭教会では、1月27日から28日にかけて、「真の父母様御聖誕記念和合統一式」が行われました。参加者60人でゲームを楽しみました。



合唱を通して“孝情”文化を発信

東京で「2016 年度全国合唱祭」



- ①合唱祭の参加者で記念撮影
- ②小学生から父母まで参加したファミリー合唱
- ③日頃の練習の成果を発揮する子供たち
- ④ダンスを交える演出も

1月29日、東京都福生市の会場で、真の父母様御聖誕祝賀記念「世界平和と理想家庭のための2016年度全国合唱祭」が開催され、全国から17校（団体）、約900人が集まりました。

小学生合唱コンクールとして始まったこの取り組みも今年で17年目。昨年から御聖誕の祝賀を第一の目的とする「合唱祭」として、小学生のみならず、中高生や青年、父母、三代圏が共に集い、家庭連合時代に相応しい心情文化発信の場となっています。

開会式では、阿部美樹家庭教育局長が主催者挨拶で、「この合唱祭が天一国実現の祈りの場となり、手を合わせる“合掌”のように一体化と調和を目指しましょう」と激励しました。

参加した合唱団17校は、団員数が14人～72人と大小様々ですが、全体では500人を突破。特徴としては、中高生や青年、壮年・婦人も参加する“合同合唱団”が多くなっていることです。

中には、微笑ましい笑いを誘うようなポーズをしたり、見事な演出と洗練された合唱に感動の大拍手が送られた合唱団もありました。子供の合唱する姿に母親が涙を流すなど、応援に駆け付けた家族や友人たちも、励ましの声援を送りながら緊張した面持ちで見入っていました。どの合唱団も精誠を尽くして個性あふれるパフォーマンス

スを、真の父母様の御前でお捧げしているような心情で披露していました。

閉会式では、総評の後、阿部局長より各校の代表に賞状や記念品などが授与されました。

会場全体で「私たちのご父母様」を讃美した後、長年にわたって日本教会の小学生教育を牽引してきた座間保裕本部成和子女部長の退職が発表され、阿部局長から花束と記念品が贈呈されました。

最後に全体で億万歳を行い、合唱祭の幕が降ろされました。

【参加者の感想】

■今年は何の合唱団もとても工夫が見られました。天の父母様への真っ直ぐで神霊に満たされた歌声から、ファミリー感が溢れるほのぼのとした歌声までバラエティーに富んでいて、合唱祭という名にふさわしい内容だったと思いました。（南東京・世田谷家庭教会）

■小学生から大人まで一緒に、天の父母様の愛を感じながら歌うことができて楽しかったです。会場の温かさを感じました。ピアノが止まってしまった学校の時、手拍子が始まり、舞台と会場が一つになって良かったです。（西東京・調布家庭教会）

「上田の中心で愛を叫ぼう」コンテスト開催 ——北長野・上田家庭教会

祝福家庭の素晴らしさを再確認

2月5日、北長野教区上田家庭教会で「上田の中心で愛を叫ぼう！」コンテストが行われました。

真の父母様の御聖誕日を祝うと共に、「家庭連合時代を迎えて、祝福家庭を誇ることが天の父母様と真の父母様に喜びをおさげすることであり、孝情の光を輝かせる第一歩である！」という趣旨で行われました。

コンテストでは、12組の夫婦がお互いを讃美するエピソードを披露。中には、ギャンブルにはまっていた友人を真の愛で更生させた証しや、夫が単身赴任のため不在でとても辛くつらく苦しいとき、多忙な夫が毎晩電話で励ましてくれた証しなど、涙あり

笑いありのエピソードを聞き、参加者は祝福家庭の素晴らしさを再認識する感動的な時間となりました。

高橋秀明教会長ご夫妻が審査員をつとめ、最後は皆の前で抱き合っキスをしたカップルには1泊の温泉旅行券がプレゼント。そのほか「日ごろの疲れを癒してほしい」という心のこもった記念品も贈られました。

日本人、特に長野県人は愛情の表現が下手と言われる中、今回の発表者たちは誰もが夫・妻に対する愛情に溢れたカップルばかり。参加者全体が、貴い祝福をくださった天の父母様と真の父母様に改めて感謝を捧げる機会となりました。



- ①全体で記念撮影
- ②コンテスト出場者の証しを聴く教会員
- ③抱擁する夫婦
- ④優勝した家庭と高橋教会長（左）